

平成29年11月27日

日本ジオパーク委員会

委員長 尾池 和夫 殿

茨城県北ジオパーク推進協議会

会長 三村 信男



茨城県北ジオパークのエリアの全市町村の正会員化について

日頃より茨城県北ジオパーク推進協議会（以下「当協議会」といいます。）の活動にご指導とご支援を賜り、感謝申し上げます。

前回平成27年12月に再認定に係る審査を受けた際には、茨城県北ジオパーク（以下「当G P」といいます。）のエリアの10市町村のうち3市町が当協議会のオブザーバーとしての活動であり、正会員ではないことが疑問視されました。このことについて、当該3市町は正会員となるか、正会員とならない場合は当G Pのエリアから当該市町を除外して設定するよう指摘を頂き、2年間の条件付き再認定になったところです。

今回再々認定に係る審査を受けるにあたり、当協議会のオブザーバーであった3市町は全て正会員となり、当G Pのエリアと当協議会の市町村の正会員は一致いたしました。加えて、茨城県も当協議会の正会員となり、積極的な関与をいただいております。この間の経緯については、下記のとおりです。

このように当G Pは、エリアと当協議会正会員市町村を一致させ、ジオパークを活用した地域振興を一層推進できる体制を整えてインタークリー等住民や地元企業等とともに活動を展開しておりますので、認定のご審議の程よろしくお願ひいたします。

なお、他の指摘事項への対応につきましては、既に提出している現況報告書並びに現地審査員への提出書類等のとおりですので、よろしくお願ひいたします。

記

1. 当初認定時の申請書（平成23年4月25日付）及び審査結果通知書（平成23年9月22日付）

（1）当初認定の申請書

- ① 「1－2位置 茨城県北部の10市町村」とあり、地図上には、北茨城市、大子町、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、東海村、ひたちなか市、日立市・水戸市・城里町を示し、この10市町村をエリアとして申請しています。
- ② 「2申請地域の一般的情報」の項目に、「茨城県北ジオパーク構想は、～北茨城市、大子町、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、東海村、ひたちなか市（当G P注：JGNにおいては、この7市町村を当G Pのエリアと扱っていたとのことです。）の5市、1町、1村にまたがり」とあり、当協議会推進協議会の正会員のみの列挙となりオブザーバーであった日立市、水戸市及び城里町は除いています。

ただこの項目の各自治体の一般情報を記載した部分には、オブザーバーであった2市1町を含む10市町村全てについて記述しています。

- 「3ジオサイトとその活用」の項目においても、オブザーバーであった日立市・水戸市・城里

町を含む10市町村の13のジオサイトを記載しています。

(2) 審査結果通知書

- 「【優れている点】」として「(当GP注:オブザーバーであった日立市・水戸市・城里町に設定されたものを含む)13のジオサイトとしてバランスよく選定・整備されている」と記載されています。

2. 条件付き再認定時の現況報告書(平成27年)及び審査結果通知書(2016年1月29日付)

(1) 現況報告書

当GPのエリアの活動報告として10市町村について述べてありますが、そのうちオブザーバーである3市町村に関する部分について述べます。

- ① 「4 1) 解説看板の設置」の項目で日立市のジオサイトに看板が設置されています。
- ② 「4 5) 防災教育 ②ジオツアーオンlineにおける防災教育」の項目に水戸市の千波湖において「水戸・千波湖ジオツアーオンline:震災から学ぶ大地の成り立ち」が実施されています。
- ③ 「7 2) ジオネット」の項目にジオサイトが存在する自治体に組織されているジオネットとして、日立市のジオネット日立、水戸市及び大洗町のジオネット水戸・大洗を述べています。
- ④ 「12 2) 及び「12 8)」」の項目で水戸市の水戸・千波湖ジオサイトに関して記述しています。
- ⑤ 添付書類にも、日立市、水戸市及び大洗町のエリアでの様々な活動を記載しております。

(2) 審査結果報告書

① 「【優れている点】」の記述の中に「茨城県北ジオパークのエリアとされる地域内には、～高鈴(当GP注:日立市)～大洗、水戸の各県立自然公園があるほか、～地域遺産の保全がなされている」と記述されています。

② 「[今後の課題・改善すべき点]」の記述の中に「協議会組織の再整備と茨城県北ジオパークの明確なエリア設定」と題して、「日立市、水戸市、大洗町はオブザーバーという形での協議会参加であり、ジオパーク活動に賛同していないように見える。しかし実態としてこれらの地域内にはジオサイトが設定され、インタープリターが活発な活躍を行っている。これは、ジオパークとして正式にオーネイミングされていない場所でジオパーク活動が展開されているように見えるため、好ましくない。上記自治体は、早急に協議会会員としてジオパーク活動に主体的に参画すること」と指摘されています。

日立市、水戸市及び大洗町も当GPのエリアであることを前提に、ジオサイトが設定され、インターパリターが活発な活躍をしているにもかかわらず、この3市町が当協議会のオブザーバーにとどまっていることに疑問を呈され、当協議会の正会員として主体的に参画するよう指摘されています。

③ 「[今後の課題・改善すべき点]」の記述の中に「茨城県北ジオパークの入口に当たる水戸駅」という記述があります。

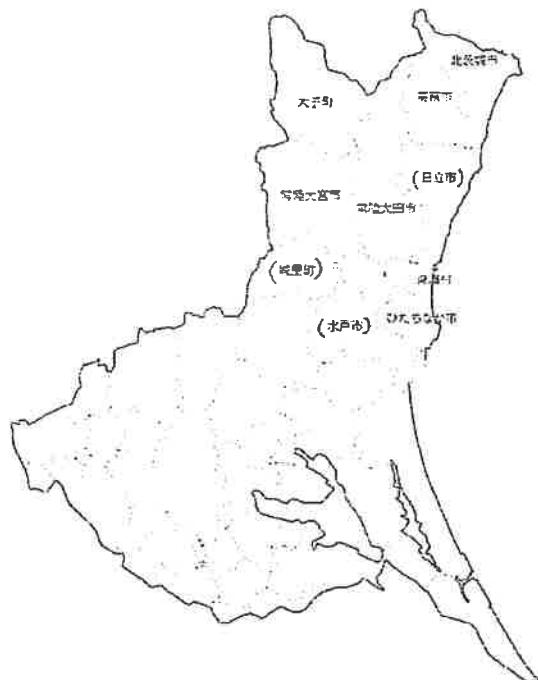
注) 前回の条件付き再認定の際に、当初認定時にエリア内であった城里町から大洗町に変更して現況報告書に記載し、そのまま認定されています。エリア面積は2,169.48km²から2,031.47km²となり、6.4%減となりましたが、10%以上のエリアの拡大にはなりません。

以上

1 茨城県北ジオパークの位置

1-1 名称 茨城県北ジオパーク

1-2 位置 茨城県北部の10市町村



2 申請地域の一般的情報

茨城県北ジオパーク構想は、茨城県中央を東西に流れる那珂川流域より北側を中心に、東西約50km南北約68kmをエリアとする。その範囲は、茨城県北茨城市(4/1:人口46,617人)、大子町(4/1:人口20,535人)、高萩市(3/1:人口30,899人)、常陸太田市(3/1:人口56,057人)、常陸大宮市(3/1:44,882人)、東海村(3/1:人口37,502人)、ひたちなか市(2/末:人口157,078人)の5市、1町、1村にまたがり、総面積やく17.8km²、人口約39.3万人(2011年3月1日現在)である。

エリア内にはJR常磐線、JR水郡線、ひたちなか海浜鉄道の3鉄道が走り東京からの動脈となっている。また、エリアを南北に貫く常磐自動車道は、東京都市圏からのアクセスを容易にしているだけでなく、磐越自動車道や北関東道に連絡し、広く北関東～南東北間を連絡している。昨年、茨城空港が開設され直行便により韓国からも容易にアクセスできるようになっている。現在、東

京及び周囲の主要都市、主要空港から茨城県北地域の主要な観光地への所要時間は東京（羽田空港）から約120～180分、栃木県宇都宮市から約60～180分、福島県郡山市から90～120分、成田空港から90～240分、茨城空港から60～180分、福島空港から120～180分となっている。地域内の幹線道路として国道6号、50号、51号、118号、123号、246号、349号などがある。

主要港湾としては常陸那珂港、日立港、大津港があり、特に常陸那珂港と日立港は国際港として北米定期航路、中国・韓国定期航路、欧州定期航路、極東ロシア航路などを持っている。また、隣接する大洗港は北海道への定期フェリーが就航しており関東地方における北の玄関口として機能している。

地域内の主な産業としては、農業や漁業等の第一次産業のほか、「日立」に代表されるような重工業等の第二次産業等がある。第三次産業としては観光業、旅行業のほか、首都圏に近いことを活かした情報通信業等も盛んである。その内訳は第一次産業8.9%、第二次産業34.2%、第三次産業56.9%である。

地域内の学術的拠点としては、国立大学法人茨城大学工学部、茨城大学五浦美術文化研究所、茨城大学宇宙科学教育研究センター、茨城大学大子合宿研修所のほか、茨城キリスト教大学、独立行政法人原子力研究開発機構等がある。

地域内の観光地としては、袋田温泉や袋田の滝、平潟港温泉、ひたちなか海浜公園、平磯海岸、五浦海岸、阿字ヶ浦、花貫渓谷、花園渓谷、八溝山、男体山等があり、地域全体で年間約900万人の観光客が訪れている。

エリア内の五浦海岸には、明治39年、岡倉天心はこの地に横山大観や木村武山、下村觀山、菱田春草の愛弟子4人を呼び日本美術院を再編成し日本画の近代化を目指した美術活動が展開された茨城大学五浦美術文化研究所がある。その所内庭先、太平洋に突き出した岩の上には天心が読書と思索にふけったといわれる「六角堂」がある。しかし、この六角堂は、本年3月11日の東北地方太平洋沖地震の大津波によって流失している。茨城大学では本ジオパークのシンボルとも言えるこの施設の早急な再建を計画している。

以下、参画自治体の一般的情報を記述する。

① 〔北茨城市〕

北茨城市は、茨城県の最北端に位置し、南は高萩市、北は福島県いわき市と接している。市の総面積の約80%は山林で、東部は低地で海岸に面し、市内を流れる大北川、里根川などの流域には、豊かな平坦地がひらけている。古くか

ら農業や漁業を中心に栄えたが、江戸後期に石炭が発見され、常磐炭田の中核として活況を呈し、今日では、工業地帯として飛躍的な伸展を見せている。平潟・大津・磯原地区では、温泉・鉱泉が湧き出し、民宿・旅館が立ち並ぶ観光の名所となっている。五浦海岸は、「日本列島ジオサイト地質百選Ⅱ」の一つに選定されている。

(2) [高萩市]

高萩市は、海や山の自然景観に恵まれ、新緑や紅葉の渓谷をはじめ夏には白砂の海水浴場など、四季折々の自然を楽しむ観光客でにぎわいを見せている。紅葉シーズンの花貫渓谷には、約10万人の観光客が訪れ、市内でも屈指の観光スポットとなっている。海岸部には、切り立った海食崖に囲まれた小さな入り江を持つ小浜海岸があり、「日本の渚・百選」の一つにも選ばれている。

(3) [常陸太田市]

常陸太田市では「市民協働」と「エコミュージアム活動」によるまちづくりを基本と位置づけ、市民のだれもが住んでよかったと思えるまち「快適空間」を将来像として、3つの基本方向「輝く人をつくる」「安らぎのある快適環境をつくる」「まちの元気をつくる」の各施策を進めている。現在、地産地消の推進と体験型観光などを進めることで、より多くの都市住民を呼び込もうとしている。なお、1994年4月には、高さが100m、長さは375mあり歩行者専用の橋としては本州一の長さを誇る竜神大吊り橋を設置し、観光客の招致をはかっている。

(4) [常陸大宮市]

茨城県北西部の中山間地域に位置し、約348平方キロメートルという広大な行政面積を有している。その約6割を占める八溝・阿武隈山地の森林は、山あいを流れる久慈川、那珂川、緒川、玉川などの清流や田園環境と一緒に、緑と水の象徴的な空間を構成しており、豊かな農産物・林産物などをもたらしている。しかし、現在は農業・林業を中心とする第1次産業の就業人口は年々減少し、高齢化及び後継者不足による遊休農地等の増加が急速に進行している。

(5) [ひたちなか市]

ひたちなか市は、観光振興計画において目標像を『「海」「ひと」が響き合う観光・交流都市 ひたちなか』としており、基本方針の一つとして、『地域資源の再生と活用による「回遊観光都市」づくり』を掲げている。平磯、磯崎の海辺は中生代白亜紀層を見ることができるなど、観光的な魅力を有しており、これらの保全とともに、地域に暮らす住民の生活と調和を保ちながら、観光資源としての活用を考えている。白亜紀層は県指定文化財天然記念物である。

⑥ [大子町]

自然豊かな環境を観光資源として活用して、交流人口の増加策をはかっている。観光のシンボルとしての「袋田の滝」の他に、肉食哺乳類足跡化石群、ゾウ類足跡化石群などがある。これらの観光資源等を活用して、人口の減少を食い止め、町の発展策を模索している。また、豊かな自然を青少年の教育にも役立てたいと考えている。袋田の滝は、「日本列島ジオサイト地質百選Ⅱ」の一つに選定されている。また、茨城県指定名勝であり、日本の滝百選にも選ばれている。

⑦ [東海村]

歴史と文化が存在するまちであり、人口減少時代の到来が叫ばれる中にあっても人口の増加や宅地化が進展するなど、都市化が進んでいる。その一方で、交流人口が少ないなどの問題があり、中小企業を中心とした商工業の振興が喫緊の課題となっている。日本三体の一である村松山虚空蔵堂など歴史的な見所のほか、J-PARKや原子力事業所等の大型ファクトリーを文化的観光資源と捉え、2009年6月から広報啓発を兼ねた産業観光を実施している。

⑧ [日立市]

日立鉱山から発展した鉱工業都市である。しかし、近年は日立グループの再編などによって人口が減少し、十王町との合併にも関わらず20万人を割った。関東平野が久慈川（日立市と東海村の境）で北端となるため、東側の太平洋と西側の多賀山地に挟まれ、南北に細長く可住地が伸びている。市北西部の日立鉱山には1914年煙害対策として高さ155.7mの大煙突（だいえんとう）が建てられ、鉱工業都市日立のシンボルとして長く親しまれてきた。

⑨ [水戸市]

関東地方の北東部、茨城県の中部に位置する都市で、同県の県庁所在地で特例市である。水戸黄門（徳川光圀）や梅の名園「偕楽園」で知られ、毎年2月には水戸の梅まつりが、8月には水戸黄門まつり、9月には水戸萩まつりが開催される。なお、偕楽園は日本三名園の一つである。明治時代以降は、納豆の生産が盛んになり、水戸の納豆として親しまれ、納豆早食い世界大会も開かれている。茨城県の中部に位置し、関東平野に属する。市内には那珂川が流れ、那珂川周辺部は低地だがそれ以外は概ね台地である。

⑩ [城里町]

当町を流れる那珂川（なかがわ）は、関東第3の大河である。関東随一の清流として知られ、流域には自然が多く残される。多くの魚類が生息しており、特にサケの遡上する河川として江戸時代には水戸藩への献上品とされていた。

の中の一つである。そして、宇宙はビックバンから始まってた。常陸国の歴史を、宇宙から始めよう。茨城大学宇宙科学教育研究センターは、天の川観察の絶好のサイトである。

関連するサイト：[茨城大学宇宙科学教育センター（高萩市）](#)

第1章「5億年前の世界」

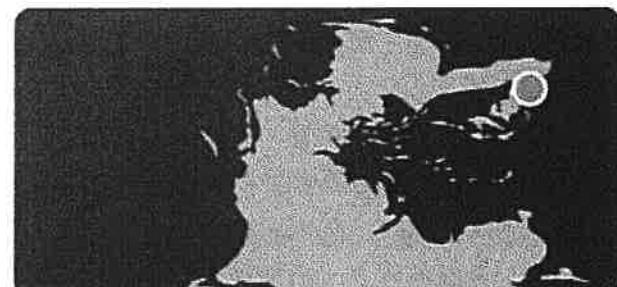
約5億年前、ひたちの国はゴンドワナ大陸の東縁に位置する火山弧だった。その後、大陸の一部となった時期や、海面下に沈んだ時期があった。



関連するサイト：[日立市の地層・日立鉱山（日立市）](#)

第2章「2億4000年前の世界」

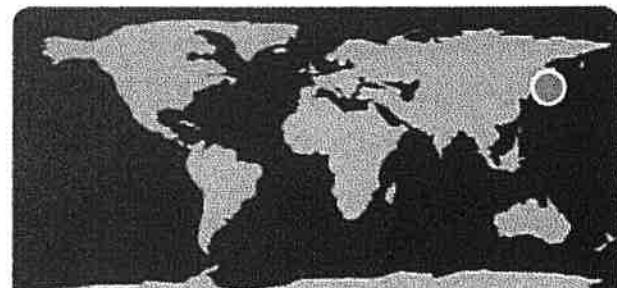
常陸国は新しい大陸パンゲアの一部となった。パンゲア大陸の縁に、海底の移動とともに運ばれてきた堆積物と陸から運ばれてきた岩石や堆積物がかき寄せられて張り付いた。これらのうち、あるものは地下深くで高い圧力と温度のもとに変形し、日本列島の土台となつた。



関連するサイト：[花貫渓谷（高萩市）](#)・[花園渓谷（北茨城市）](#)・[八溝山（大子町）](#)・[平磯海岸（ひたちなか市）](#)・[高取鉱山（城里町）](#)

第3章「2000万年前の世界」

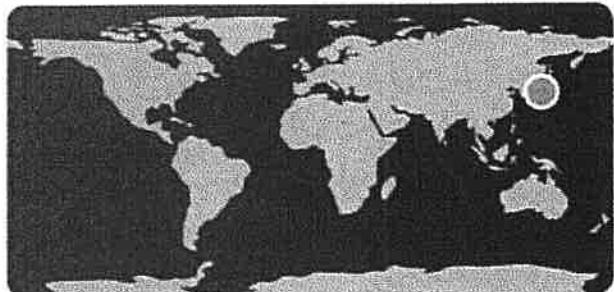
この時代、日本列島は大陸から切り離され、現在の形になった。ひたちの国ははじめ陸であったがその後大部分は海面下に沈んだ。



関連するサイト：五浦海岸（北茨城市）・袋田の滝（大子町）・棚倉断層（常陸太田市）・常磐炭田（北茨城市）

第4章「現在」

地球の気候変動にともなつて海面が上下し、その結果。現在の特徴的な地形が形成された。人々は大地の恵みを活用し、日立鉱山や常磐炭田などの鉱山やそれを基盤にした工業、特有の風土に根差した漁業や農業等が発達した。これら人々の営みの中で、文化や芸術が創造されていった。



関連するサイト：千波湖（水戸市）・段丘地形（日立大宮市）・五浦海岸六角堂（北茨城市）・常磐炭田（北茨城市・高萩市）・日立鉱山（日立市）

3-3 主なジオサイト

ここでは、13のジオサイトの内から特徴的な3つのジオサイトを紹介する。

【日本最古の岩石と日本の繁栄を支えた鉱山：日立ジオサイト】

日立古生層のうち、西堂平層、玉簾層、赤沢層と赤沢層に貫入する花崗岩類は約5億年前のカンブリア紀のものである。これらの地層と岩石は日本最古の地層であり、日本列島の誕生と発達史を語る上で出発点となる。SHRIMPによって得られた放射年代によって地質時代が決められた（田切ほか, 2010; Tagiri et al., 2011 *in press*; 田切・小池, 2011 印刷中）。これらの地層と岩石は多賀山地の60 km²以上の地域に分布し、日立変成岩類となっているが、原岩の組織構造がよく残されており、地質の解明が容易である。赤沢層の上位には前期石炭系の大雄院層が不整合で覆っており、1.5億年の間隙をもつ大不整合は世界的にも特徴的な事象である。カンブリア系の発見によって、日本列島基盤の地体構造区分の見直しが求められている。さらに、日立カンブリア系は中国大陸東北部の地層に対比されることから、ゴンドワナ超大陸の地史と日本列島の誕生の関係を明らかにする手がかりとなる。これまでの研究では、多賀山地からカ

茨城県北ジオパークのエリアの全市町村の正会員化について

添付資料



茨城県北ジオパークの エリア変更について



茨城県北ジオパーク推進協議会

目 次

1. エリア変更の経緯と概要	… p. 1
2. 変更エリアの位置と行政区分	… p. 2
3. エリア変更後の推進協議会体制	… p. 4
4. 変更エリアのジオサイト 「大洗海岸ジオサイト」	… p. 5
5. 大洗海岸ジオサイトを活用したジオパーク活動	… p. 9
6. 保全活動	… p. 10
7. 拡大エリアの今後のジオパーク活動の展望	… p. 10

1. エリア変更の経緯と概要

茨城県北ジオパークは、前回(平成 27 年 10 月)の条件付再認定の際の現況報告書には、城里町をエリアから除外し、大洗町をエリアに編入する内容で記載していたが、エリア変更に係る書類が不十分であったため、今回、補足する資料を提出するものである。

城里町の鉄マンガン重石、錫石や黄銅鉱などを採掘していた高取鉱山をジオサイトに指定し、ジオパーク活動を推進する計画であった。しかし、高取鉱山は休山しており、現在はズリ山、坑口跡などが残っているが、その管理保全は民間企業が行っているため必ずしも十分でない。そのため、ジオパークとして調査活動や保全活動に制限があり、具体的にはジオツアーや実施に際して参加者の安全が担保出来ない等の不都合があったため、城里町を茨城県北ジオパークのエリアから除外することとした。

大洗町は、大洗県立自然公園に位置する大洗海岸を中心とした観光の名所と、太平洋の水産資源に恵まれ、従来から大洗海岸の地層、景観、海岸の動植物等を観光資源として活用してきたが、平成 23 年の東日本大震災では死者こそなかったものの、津波の被害を受け、その後の風評被害にも苦しみ、海水浴客の減少等で観光収入は大幅に激減した。

大洗町ではジオパーク活動の推進により、大洗海岸の調査研究と保全活動を推進し、教育と観光への利活用を加速して、震災からの復興を目指すこととして、平成 24 年 8 月に茨城県北ジオパーク推進協議会にオブザーバーを表明し、茨城県北ジオパーク推進協議会では大洗町をジオパークのエリアに加え、大洗海岸ジオサイトを中心に活動してきた。平成 27 年の再認定審査でその活動は認められるものの、オブザーバーとしての参加の適否について日本ジオパーク委員会から指摘があり、大洗町は平成 29 年 4 月に正会員に加入した。

2. 変更エリアの位置と行政区分

城里町は茨城県北西に位置し面積は 161.8Km²である。大洗町は茨城県東部に位置し面積は 23.74km²である。城里町のエリア除外と、大洗町の加入により、茨城県北ジオパークの面積は、2,169.48km²から 2,031.42km²となり約 6.4%の減少となった。

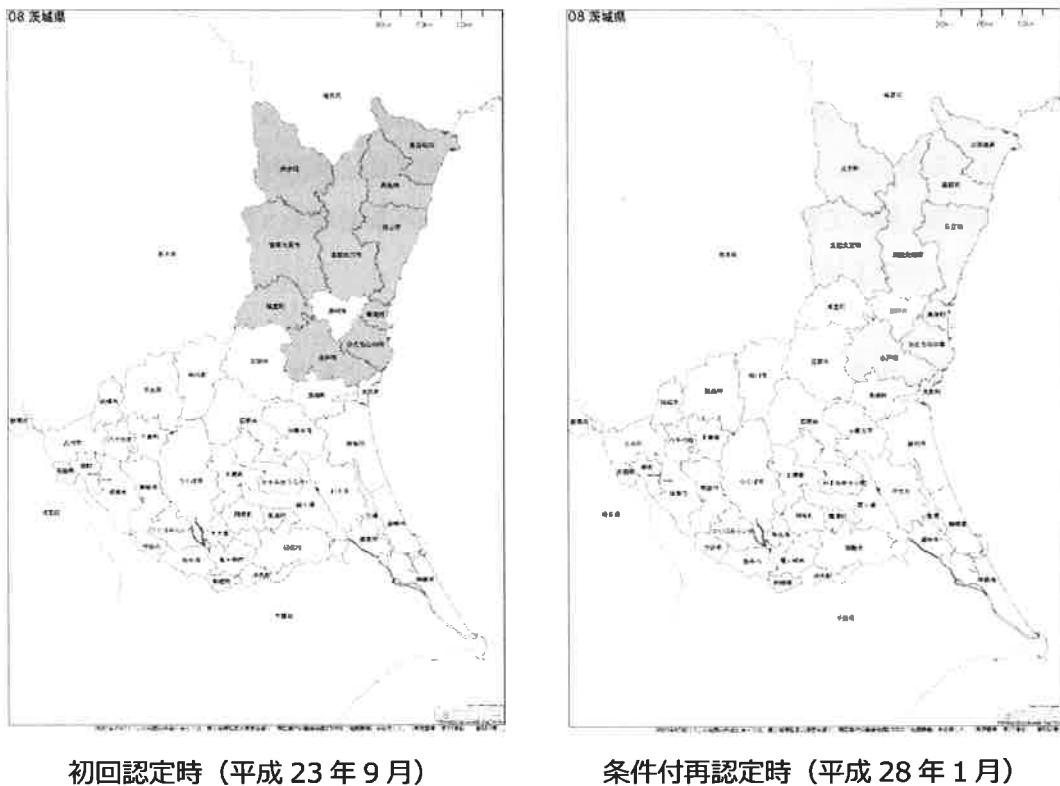


図1 ジオパークエリアの変更

表1 エリア変更後の茨城県北ジオパークの人口と面積

市町村名	ジオサイト	人口(人) (平成29年1月1日現在)	面積 (Km ²)
北茨城市	五浦海岸 常磐炭田 花園渓谷	43,646	186.80
高萩市	花貫渓谷 茨城大学宇宙科学 教育研究センター	29,120	193.58
日立市	日立	182,440	225.74
大子町	袋田の滝 八溝山	17,478	325.76
常陸太田市	棚倉断層 竜神峡	51,305	371.99
常陸大宮市	大宮段丘	41,840	348.45
東海村	東海村	37,672	37.98
ひたちなか市	平磯海岸	155,975	99.93
大洗町	大洗海岸	16,886	23.74
水戸市	水戸・千波湖	271,106	217.45
合計		847,468	2,031.42

注) 城里町の人口は19,960人である。(平成29年1月現在)

3. エリア変更後の推進協議会体制

茨城県北ジオパーク推進協議会の組織図を示す。平成 29 年 4 月にオブザーバー参加であった茨城県、水戸市、日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、大洗町、東海村、大子町、筑波銀行、常陽銀行、茨城大学が正会員として加入した。

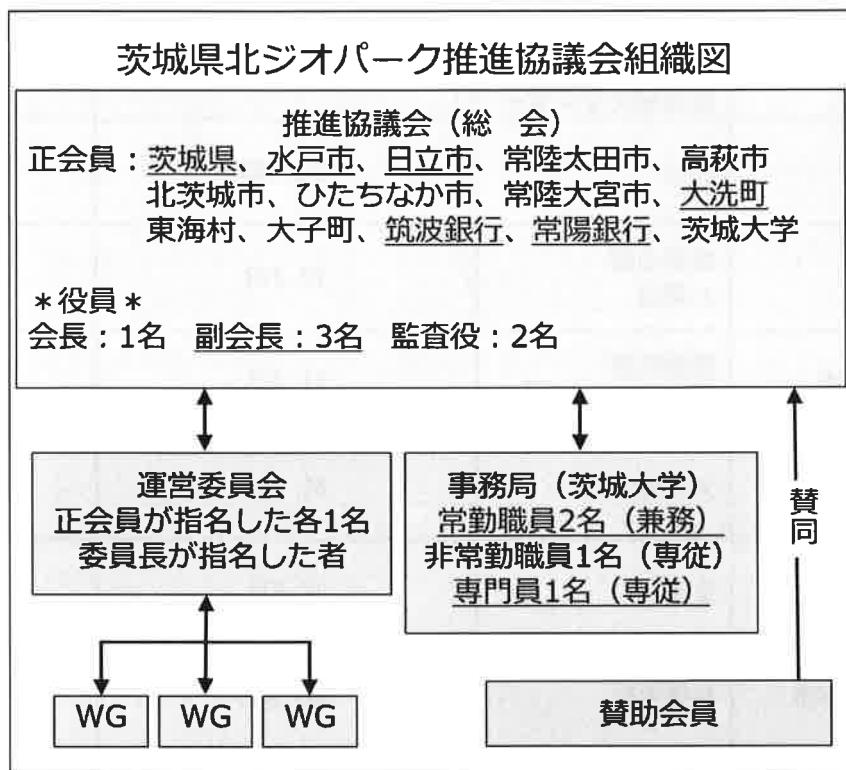


図2 茨城県北ジオパーク推進協議会組織図（平成 29 年 4 月）

4. 変更エリアのジオサイト 「大洗海岸ジオサイト」

大洗町の大洗海岸ジオサイトは、今から6500~5200 万年前に堆積した礫岩からなる変化に富んだ地形の海岸の沖では、冷たい親潮と温かい黒潮がぶつかる「潮目」があるため、寒流と暖流の双方の魚介類が生息し、豊かな観光資源に恵まれている。

大洗海岸ジオサイトは全域が大洗県立自然公園に位置し、茨城県北ジオパークのメインテーマである「5 億年の、旅に出よう！」では、日本列島が大陸から分かれて「列島となった“ひたちの国”の旅」の中で日本海形成の少し前の時代を物語る位置付けである。

大洗町に隣接するひたちなか市の平磯海岸ジオサイトは、日本列島が出来る前の大陸の縁にかかり寄せられて大地が作られた時期の「“ひたちの国”的土台を見る旅」、同じく隣接する水戸市の水戸・千波湖ジオサイトは、現在の日本列島とほぼ同じ形になった「私達人類の“ひたちの国”的旅」の位置付であり、3 ジオサイトで3つの時代を学ぶことができるため、平磯海岸→大洗海岸→水戸・千波湖の3 ジオサイト巡回コースをモデルコースのひとつ「ローカル交通乗り鉄コース」として推奨している。

茨城大学の学生プロジェクト「地質情報活用プロジェクト」が制作した“ジオサイトマップ：大洗海岸”は第2版となっており、大洗海岸の浜沿いの見どころを歩くコースを紹介している。

大洗海岸ジオサイトの近隣には、全国でもトップクラスの大型水族館 “茨城県大洗水族館アクアワールド”や海水浴場、サーフィンのスポット、とれたての新鮮な魚介類を味わえる味の名店が数多く、また、民謡の“磯節”的発祥の地として、浜の歴史と人々の暮らし、文化を伝えており、ジオサイト来訪者にも海の恵みを提供している。

また、毎年秋に開催する“あんこう祭り”に本年は全国から13万人以上が訪れ、2011年の東日本大震災以降減少していた来場者が回復しつつある。大洗町のイベントにジオパークとして支援を行い、大洗町の地域振興に寄与したい。



写真1 大洗海岸

(表面)

大洗と「墨潮」「朝潮」

大洗は水産資源に恵まれていますが、これはなぜなのでしょうか？実はこれに大きく影響を及ぼしているのは、日本の開拓をもたらす2つの潮流なのです。

日本の本流沖では、北緯36度から東経140度へ「朝潮」が流れ、その方の海から冷たい海水を運んでいます。また、沖縄から東経125度へは「墨潮」が流れ、南の方の海から温かい海水を運んでいます。

大洗沖にはこの2つの潮流がかかる「潮目」にあります。そのため、大洗沖には寒波・暖波に生息する双方の魚介類が生息し、私たちがおなじみの魚介類を食べることができるのです。

だから潮運の仲間がたくさん見られるんだね！

歴史ある黒松林

海岸線沿いに生えそろっている木々、黒松。黒川原の初年に防風・防砂のために植えられて以来、現在までその役割を果たしています。当時の水戸藩主徳川義公が黒松林の中で月見の宴を挙げたという説が残っています。

さらに、海岸の食でも黒松林があります。角は喉のところを黒くしてあります。黒松は、常に葉を黒くすることで虫食いや病害から守られています。特に冬に虫食いが多いため、黒松林の中では黒松林を見ることがあります。

黒松林の中からはゴルフ場として利用されていますが、海岸の浜道や海岸では黒松林を見ることがあります。

日本三大民謡「朝潮」

日本三大民謡の一つである「朝潮」は、ここ大洗で生まれました。朝潮は江戸時代初期には、實に大洗海岸の漁師たちの間で歌謡として歌われていました。昭和時代に民謡にも伝わってきました。

大洗にある礁石海岸の跡には、礁石や海岸植物の駐車場が設けられています。また、海岸植物の駐車場から行くことができます。

スケッチブック: お土産を販売する「朝潮」では、「朝潮」を描いてくれます。ぜひお土産としてお持ち帰りください。

アクセス

■ 茨城県北シオパーク推進協議会

アドレス: www.journaledgepark.com
ホームページ: www.kita-syio-park.jp
茨城大学の学生によるプロジェクトです

この度つぶやくするお問い合わせは、茨城県北シオパークプロジェクトまで。

茨城県北シオパーク推進協議会

所在地: 茨城県 www.kita-syio-park.jp
ホームページ: www.kita-syio-park.jp

茨城県北シオパーク推進協議会

(裏面)



図3 ジオサイトマップ：大洗海岸

表2 大洗ジオサイトに関わる学術論文

No	分類	区分	タイトル	発表日	掲載論文	執筆者
1	地質	学術論文	茨城県に於ける上部白堊紀大洗層産大洗植物群についての検討：茨城産化石植物……其の一	1956年	茨城大学文理学部紀要 自然科学(6)	大山年次
2	地質	学術論文	茨城県に於ける上部白堊紀大洗層産大洗植物群の追加：茨城産化石植物,其の二	1957年	茨城大学文理学部紀要 自然科学(7)	大山年次
3	地質	学術論文	茨城県に於ける上部白堊紀大洗層産大洗植物群の第二次追加：茨城産化石植物,其の三	1958年	茨城大学文理学部紀要 自然科学(8)	大山年次
4	地質	学術論文	茨城県に於ける上部白堊紀大洗層産大洗植物群の第三次追加：茨城産化石植物……其の四	1959年	茨城大学文理学部紀要 自然科学(9)	大山年次
5	地質	学術論文	涸沼の地学的考察(第1報)	1959年	茨城大学文理学部紀要 自然科学(9)	斎藤登志雄
6	地質	学術論文	茨城県に於ける上部白堊紀大洗層産大洗植物群の第四次追加報告：茨城県産化石植物,その五	1960年	茨城大学文理学部紀要 自然科学(10)	大山年次
7	その他	学術論文	茨城県涸沼の環境資源	1998年	茨城大学地域総合研究所年報(31)	阿須間幸男、堀江美紀、石井亮
8	その他	学術論文	涸沼のヘドロを利用した環境再生	2000年	茨城大学地域総合研究所年報(33)	光田圭一郎、他
9	地質	学術論文	大洗層の变成岩礫と花崗岩礫の供給源について	2000年	地質学雑誌 Vol. 106	小野晃
10	地質	学術論文	原研大洗サイトにおける鉛直アレー地震動観測データベース	2001年	日本原子力研究所 研究報告書	蛇沢勝三、他
11	地質	学術論文	[特集]新生代軟体動物古生物学の最近の進展と課題	2002年	"化石	増田孝一郎
12	地質	学術論文	大洗層の大型植物化石による地質年代推定(18.新生代古生物)	2005年	"第112年学術大会 (2005京都)	斎木健一、他

No	分類	区分	タイトル	発表日	掲載論文	執筆者
13	地質	学術論文	関東平野東端の太平洋岸に分布する銚子層群・那珂湊層群・大洗層の地質学的位置づけ	2006年	地質学雑誌 Vol. 112	安藤寿男
14	地域活性・経済	学術論文	ユニバーサルアウトドア拡大への取り組み：大洗にて	2010年	茨城大学地域総合研究所年報(43)	有賀絵里
15	地域活性・経済	学術論文	茨城県・涸沼のワイルドユースおよび地域資源の有効活用に向けて ラムサール条約登録前後における茨城町住民意識調査	2016年	茨城大学人文学部紀要 社会科学論集 62	田村誠、他
16	歴史・文化	学術論文	大洗町の多文化共生に向けた活動における成果と課題：拡張的学習を枠組みとして	2016年	茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集 20	横溝環
17	歴史・文化	学術論文	大洗磯前神社における信仰と観光	2016年	筑波大学人文地理学研究 36	卯田卓矢、他
18	地域活性・経済	学術論文	茨城県大洗町における漁業者の活動からみた漁業地域の存続	2016年	地域研究年報 38号	橋爪孝介、他
19	地域活性・経済	学術論文	茨城県大洗町における海浜観光地域の継続的発展要因	2016年	地域研究年報 38号	渡邊瑛季、他

5. 大洗海岸ジオサイトを活用したジオパーク活動

大洗町教育委員会が開催する生涯学習「大洗学講座」でジオパーク、大洗海岸ジオサイトを取り上げている。

大洗海岸ジオサイトのガイド活動は、ジオネット水戸・大洗が担当している。大洗町には1名のインタープリター認定者がいるが、今後、大洗町民からインターパリターを養成していく。

茨城県北ジオパーク応援弁当「ジオ丼®」は、株式会社ジオフーズが企画・販売しているが、製造元は大洗町のお弁当の万年屋（有限会社こうじや：お弁当製造業）である。「ジオ丼®」は特に地元産の海産物が美味しいとの評価で、大洗町の地域経済に貢献している。

【大洗学講座】第2回講座 大洗海岸の自然と歴史

普段見慣れた岩礁の大洗海岸。造られた年代は、悠久の数千万年前に遡ります。大洗海岸には海藻や貝・魚などの生物が生息し、ヒトによる資源利用の歴史がありました。今回は、この大洗海岸について、その自然の営みと歴史の歩みについて、学びます。ふるってご参加ください。

開催日時 平成29年 9月24日(日)
午前10時00分～午後2時30分頃

定員：午前～昼 中学生以上30名(先着順・要事前申込)
午後 定員制無し

参加費：午前～昼 1,000円(昼食代、資料代、保険料など、当日朝徴収)
午後 無料

講師：午前・自然・西原昇治(茨城県北ジオパーク推進協議会インターパリター)
昼食：宮沢泰子(株式会社ジオフーズ社長)
午後・歴史：蓼沼晋未由(大洗町教育委員会生涯学習課職員)

会場：午前 大洗海岸(集合場所は、決定者に通知)
昼・午後 大洗町中央公民館(大洗町駿浜町6881-88)

その他：昼食はシバ喜を食べます。午前の部は、当日の天候が悪くても、中央公民館での室内講座に切り替えて開催いたします。

主催：大洗町教育委員会・茨城県北ジオパーク(ジオネット水戸・大洗)

●申込方法
午前～昼の部は、電話での事前申込が必要です。8月21日(月)午前9時00分～受付開始。先着順のため、定員に達した時点で受付を終了いたしますので、あらかじめご了承ください。
午後の歴史の部は、事前申込不要です。当日、午後1時00分までに中央公民館にお集まりください。決定者には、受付終了後、通知いたします。

問合・申込先 大洗町教育委員会生涯学習課
☎029-267-0230

図4 平成29年9月開催の「大洗学講座（第2回）」

6. 保全活動

大洗海岸ジオサイトは全域が大洗県立自然公園であり、自然公園法に基づく保全活動の他に、ジオツアー等で参加者に保全の意義を伝えている。茨城県北ジオパークでは「ジオパーク保全リスト」により、全ジオサイトのみどころ（トップ）の保全状況を管理している。

また、大洗町にある涸沼はラムサール条約に登録されており、大洗海岸ジオサイトと隣接するので、今後、涸沼ラムサールネイチャーガイド等との連携を検討したい。

7. 拡大エリアの今後のジオパーク活動の展望

大洗町は大洗町教育委員会を運営部門として、学校教育、生涯学習から住民のジオパーク活動への参加、普及に注力しているが、平成 29 年 4 月に推進協議会の正会員に加入により、この動きが加速している。また、今後は大洗町の商工業者や観光業者と連携し、町のイベントなどでジオパーク活動を普及したいとしている。

茨城県北ジオパーク エリアに関するメモ

2011新規申請（申請書）	位置 茨城県北の10市町村：北茨城市、大子町、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、東海村、ひたちなか市（水戸市、日立市、 <u>城里町</u> ）
申請地域	「茨城県北ジオパーク構想は、茨城県中央を東西に流れる那珂川流域より北側を中心に、東西約50km南北約68kmをエリアとする。その範囲は、茨城県北茨城市、大子町、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、東海村、ひたちなか市の <u>5市、1町、1村</u> にまたがり、総面積やく17,8km ² …。」
資料：ジオサイトリスト	5市1町1村以外のエリアである日立（かみね公園）（日立市）、 <u>高取鉱山（城里町）</u> 、常磐炭田（日立市）、千波湖（水戸市）が含まれている。全13のジオサイト
2011現地審査報告（公開版）	
5市1町1村以外の見学地点	日立市かみね公園
2011審査結果報告書	5市1町1村が推進協議会を構成 13のジオサイト エリアについては特に言及なし
2011審査結果報告書に対する回答	エリアについては特に言及なし
2014推進協議会名簿	組織体制 協議会：茨城大学学長、北茨城市長、高萩市長、常陸太田市長、常陸大宮市長、ひたちなか市長、大子町長、東海村長、（財）グリーンふるさと振興機構理事長 オブザーバー：茨城県、水戸市、日立市、 <u>大洗町</u>
2015現況報告書	組織体制 2014名簿と同じ オブザーバー：茨城県、水戸市、日立市、大洗町 ジオサイト 13のジオサイトに加え、エリア以外では <u>大洗海岸ジオサイト</u> の記載あり。
2015現地審査報告（詳細版）	
茨城県北ジオパークの範囲	那珂川から北側。その北側は福島県との県境まで。現在は水戸市の千波湖から北側。（「千波湖がある那珂川の南側も含めた水戸市全域」という意味。）
日立市	日立市はオブザーバー。 <u>自治体が参加していないだけでエリアには入れている。</u>
大洗町	メンバー参加の意向あり。実績ないため認めず。

	水戸市	参加の可能性あり
同（公開版）	エリア	「ジオパークのエリア地域内には、・・・高鈴（日立市）、大洗、水戸の各種県立自然公園がある・・。」
2015第25回JGC議事録		「ジオパークエリアである日立市、水戸市、大洗町が協議会の会員でなく…」
2015審査結果報告書	ジオサイト	「ジオパークのエリア地域内には、・・・高鈴（日立市）、大洗、水戸の各種県立自然公園がある・・。」
	組織とエリア設定	「日立市、水戸市、大洗町はオブザーバーという形での協議会への参加であるが、実態は地域内にジオサイトが設定され活動している。ジオパークとして正式にオーソライズされていない場所で活動が展開されているように見えるので好ましくない。組織の再編とそれに伴うエリア設定を明確に定めること。」
2017.5		茨城県、日立市、水戸市、大洗町が協議会に参加の連絡。
2017現況報告書	運営体制	「日立市、水戸市、大洗町が協議会に参加。」

